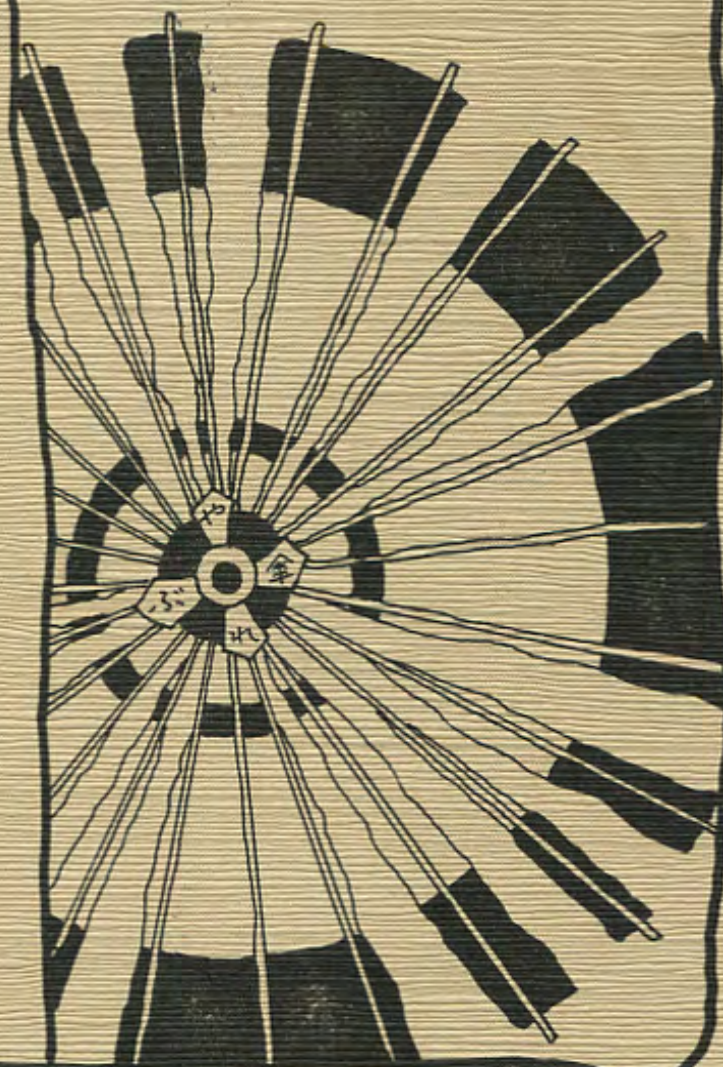


やぶれ傘



七十五号

二〇二三年十二月

隣りより日のさして茶の花の垣	根橋宏次
青空の中より林檎挽ぎにけり	廣瀬雅男
里芋に箸刺してみる煮付けかな	丑久保勲
葱の葉の買ひ物籠に曲がりをり	きくちきみえ
湖に岬の見えるてうろこ雲	大島英昭
天守閣跡のベンチに日向ほこ	瀬島酒望
穴惑ひ天狗山にてばつたりと	白石正躬
窓よりの光に林檎美術室	安藤久美子
方丈の千の瓦に冬日照る	藤井美晴
からすなくこゑのとほのき冬の月	渡邊孝彦
冬日さす鼻の歪んでゐるやうな	小山陽子
夕日浴ぶ幅十間の柿すだれ	久世孝雄
騎馬戦の大將落馬いわし雲	有賀昌子
凧の夜更に使ふ電子辞書	國保八江
竿たたみ魚籠ひきあぐる虎落笛	石原健二

抄 集 句 傘 ぶ れ や

大 崎 紀 夫 選

団栗の掃き寄せてあり社裏	上林富子
芒野や顔を並べて風の牛	菊地葉子
幸せはこんな句ひよ秋刀魚焼く	武田紀久
神牛の鼻づらなでて秋深し	時田義勝
黙々と歩荷の行けり落葉道	中村則夫
土埃立てて騎馬戦天高し	貫井照子
目指したる山頂近し鱗雲	野口希代志
かはたれの霧の灯ゆらりゆらりかな	萩原溪人
篝火の木の香色なき風に乗る	橋本美代
放し飼ひのイグアナ探す日の盛り	松本正生
群雀長き稲架より音たてて	山本千夏
集会の人みな散じ鉦叩	秋山信行
衣被「夫婦善哉」読み止して	浅嶋 肇
秋鯖の腹ばんばんの縞模様	泉 一九
補助輪をはづす練習天高し	岩藤礼子

冬の鯉

大崎紀夫

塚山といへるへ登りうろこ雲
ぼんやりと空地ひろがる十三夜
稲架棒の穴くるぐろと残りけり
桐の実を眺めなどしてをれば昼
夕風のすこしきてゐる種瓢

けふの日の山に没りゆく柿すだれ
銀杏を拾ふ手に日のこぼれくる
夜明け前より鷹匠の家灯り
港に灯いつしか窓の棧に雪
冬の鯉ゆるりと杭を躲しけり
内海に猟銃の音ひびきけり
ストーブへ同じ長さの薪放る

冬 瓜

根橋宏次

冬瓜を好きかと問はれぬたりけり
測量の二人は遠しうろこ雲
コスモスの畑の中を通りけり
栗を剥く刃の切れ味をいひながら
バリカンの刈上げ頭松手入
散骨の話すすこしする夜長
隣りより日のさして茶の花の垣
シースルーエレベーターを枯木越し
畳屋の木賊の頭枯れにけり
亀石に並びつつじの帰り花

石路の花

廣瀬雅男

青空の中より林檎挽ぎにけり
ぐい飲みやもつてのほかの菊臙
夜の風に菊田の匂ひありにけり
風は海より冬きざす岬かな
夜の風の強まる気配酉の市
庭石の日の差すところ石路の花
土間に居て竈に暖をとりにけり
高みには風のあるらし木の葉散る
連なりて川を流るる木の葉かな
煙より炎に代はる焚火かな

里芋

丑久保勲

オフサイドの審判の笛 鱒雲
捨ておきし鉢に紫式部の実
里芋に箸刺してみる煮付けかな
白壁の芋虫の角動きけり
ローラーの道均しゐる秋の暮
石露の花枯山水の波新た
掌で雨確かむる草紅葉
障子貼り午後は上野へ出る予定
柿切ればスライスされし柿の種
乱れ箱の古きタイピン小鳥来る

葱の葉

きくちきみえ

ひたひたと猫のすぎゆく十三夜
茹栗の皮より柔し栗の虫
昼時のカレーの匂ふ小春かな
確かなるガスストーブをつける音
表札の乾いてゐたる花八つ手
柿落葉日向へ吹かれ出でにけり
葱の葉の買ひ物籠に曲がりをり
獣道へと人の足跡もみづれり
新聞を斜めに菊を包みけり
台風来目玉の白き目玉焼き

冬 星

大島英昭

糶田にポンプ一基が錆びてゐる
陽のあたる径の湿りや赤のまま
草揺るる飛蝗飛び込みたるあたり
湖に岬の見えてうろこ雲
尾根すぢは赤松林細る虫
ふかふかの末枯れ芝生との曇り
水音の聞こえて鴨のこゑのして
冬の陽を斜めにもぐら塚高し
冬星のひとつ出でけり日の名残り
宿の夜の冬満月を窓にして

日向ぼこ

瀬島洒望

街中に残る農家や蚯蚓鳴く
地虫鳴く野に開発の予告札
台風の雲の尾過ぎてゆきにけり
色変へぬヒマラヤ杉や市営墓地
紅葉づれる満天星に雨しきりなる
新しき卵塔のあり草紅葉
古書市に巻の一買ふ文化の日
つれづれに朝顔の種採りにけり
城壁の下は畑や唐辛子
天守閣跡のベンチに日向ぼこ

穴惑ひ

白石正躬

林間にかすかな音をけらつつき
満月は川中に影落としけり
穴惑ひ天狗山にてばつたりと
日課なり朝の畑の菜虫取り
草の露払ひてザツクおろしけり
やや寒の土手をしばらく歩きけり
風少し秋夕焼けの彼方より
秋惜しみをれば町の灯ふえてきて
山の端に青空のある時雨かな
渡船小屋の戸を開けてある小春かな

林
檜

安藤久美子

色鳥のひとさわぎしてそれつきり
きのふより赫を確かに曼珠沙華
ざつくりと裂けし柘榴の痛さうな
窓よりの光に林檎美術室
草の香やぽくぽく歩む馬の背に
栗の幹くねくね栗の毬落つる
もひとつの計報零余子を採る頃に
菊花展手入れに入る人の影
城門の壁塗りかはり天高し
塵取と箒寄せあり花八手

◇ 1月・2月の句会案内

月	日	時	句会名	会場	連絡先
1月	7日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	7日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	8日(水)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	10日(金)	PM6:00	なごみ会	浦和コミセン	丑久保 勲
	18日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	25日(土)	AM10:00	楽天会	中央公民館	廣瀬雅男
	26日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室
	31日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
2月	3日(月)	PM7:00	ぎんなん会	浦和コミセン	丑久保 勲
	4日(火)	AM9:00	こなから会	戸田市中央公民館	大崎紀夫・WEP
	4日(火)	PM6:00	うらら会	浦和コミセン	瀬島 孟
	7日(金)	AM10:00	NHK大崎教室	さいたまアリーナ	NHK文化センター
	7日(金)	PM6:00	なごみ会	市民会館うらわ	丑久保 勲
	15日(土)	PM2:00	セニョリータ句会	WEP俳句教室	藤井美晴
	16日(日)	AM10:00	吟行会(下記注)	横浜・三溪園	丑久保 勲
	22日(土)	AM10:00	楽天会	中央公民館	廣瀬雅男
	23日(日)	PM2:00	やぶれ傘句会	WEP俳句教室	WEP編集室

(注) ぎんなん会は奇数月は第1水曜、偶数月は第1月曜です。

1月のNHKは31日(金)です。浦和コミセンも日程注意。

2月16日(日)の吟行。集合は10時。集合場所は横浜のJR根岸駅。

吟行地は三溪園。句会場は神奈川近代文学館(港の見える丘公園)和室。

25年4月が雨だったので再挑戦。

◎ 連絡先 瀬島 孟 ☎ 048-862-2757 藤井美晴 ☎ 0422-55-2733
 大島英昭 ☎ 048-592-5041 WEP編集室 ☎ 03-5368-1870
 廣瀬雅男 ☎ 048-443-7522 浦和コミセン ☎ 048-887-6565
 丑久保 勲 ☎ 048-853-3856 WEP俳句教室 WEP編集室へ